

いのちと健康を守る活動

—CMIP ジョジョのクリニック日誌から—

<医療支援、3—5月の報告より>

<巡回診療>

3/10: インフルエンザが大流行のティボリ町スプで巡回診療を実施した。家族全員が罹患している場合は家を訪ねて、問診ののち薬を出した。おかげで、肺炎など重症化を防ぐことができた。改めて、風邪に効くラグンデの栽培を勧めた。受診世帯数は 27。

5/31: マラパタン町トカブラオ地区で、5—11 歳までの男児 42 人に割礼処置を実施した。割礼は、もともと宗教的理由あるいは伝統文化に基づくものだが、尿路感染症や泌尿器系疾患の予防に有効とされている。今回は教会関係の寄付もあり、特別支援として実施した。

<CMIP 本部クリニックでの患者支援事例>

4/13: めまいや背中痛みが続くマラパタン町バンリの 48 歳の男性から支援要請を受けた。貧血と胃炎とわかったが、入院せずに、緑黄野菜の摂取、規則正しい食生活を勧め、薬代の一部を支援した。

<アトモロック土地紛争避難民への緊急医療支援>

4/18: 住民 2 名が殺された土地紛争で不穏なアトモロックからサムラングに避難した住民の緊急支援を行った。患者 40 名の大部分は風邪と下痢だった。

<各村での母親クラブ、教師の活動>

3/28: 各学校担当教師から、週末実施の家庭訪問報告を受けた。学校の薬草園の種を分けて、裏庭での薬草作りが少しずつ広がっているようだ。

PIHS と協働の健康な村作り事業地域、ブラコンとバロンギスを訪ねました

<ブラコンの薬用石鹸作り>

6 月の現地訪問初日、ブラコンを訪ねて収入向上と、各種活動の財源づくりを目的とする石鹸作りを見学しました（関連記事 P6）。午後 2 時を過ぎていたため、幼児教室、栄養指導、給食等の活動は終了していましたが、待っていてくれた子どもたちに、会員や市民のご寄付による歯ブラシとタオルを渡すことができました。

石鹸については、パッケージ入りなら、日本でもギフト用として売られるかもしれないと、事前に助言したところ、薬草名等のラベルを貼ったバニグ編みのミニバスケット入もできていました。

また、通常の食用油使用と聞いて、ココヤシ油を使うのはいかがでしょうかと提案しました。先週のメールには、ココヤシバージンオイル（CVO）を作ってみた、ラマダンが明けたら、CVO 入石鹸作りや、成分詳細明記等、ラベル改良にも取り組みたいとありました。

PIHS が指導する各村の活動は、どこにも元気なお母さん方がいて、時に大声で議論しながら、確実に歩みを進めているとの印象があります。また、ブラコンの識字教室担当リチャードのように、事業の受益者、奨学生の活躍を見るのは嬉しいことです。

ナセル君、元気です！

石鹸作りを見ていた時、袖を引く気配を感じて振り向くとナセル君でした。僕元気だよと言いたかったようです。2 年前、会員の皆様のご協力をいただいて、肛門形成手術を受けたナセル君。お姉さんと近隣住民に見守られて元気に学校に通っています。



← 歯ブラシとタオルを配りました。

石鹸入りミニバスケット ↓



<洪水対策が鍵 —バロンギスの薬草モデル農園>

今回の訪問では、耕運機貸出で成功したヘルス組合としてご紹介してきた、パリンバン町バロンギスも訪ねました。ジェネラルサントスから車で 3 時間の距離にあり、PIHS の定期モニターの大変さがわかりました。

バロンギスの新規事業、薬草モデル園用地は、昨年 11 月の洪水により堆積した泥土なのか、湿った黒土で覆われていて肥沃そうです。この氾濫で流されたと聞いていた常備薬を備えたヘルスポストはすでに再建されていました。バロンギス同様、スラウェシ海にそそぐ中小河川の河口部の村は、源流域ダグマ山系の環境破壊でよく洪水被害があります。幸い、バロンギスでは堤防の建設が始まっていました。青年たちが中心になって進める薬草モデル農園の成功のために完成が待たれます。（2 地区の事業は WE21 ジャパンみどりの助成によるものです）

カワスにある PIHS 循環型農畜産予定地も訪ねました

丘陵地とヤギを飼育している平坦地を合わせた 0.5ha ほどの土地は、ナプサさんの義兄が管理していました。持続可能な PIHS 活動拠点には十分な広さです。事業の詳細が届き次第、支援の是非、方法を検討したいと思います。